

令和2年度
近畿大学工業高等専門学校

外部評価報告書

令和2年11月

目 次

1. 外部評価委員会	
1-1 外部評価委員名簿	1
1-2 令和2年度外部評価委員会議事概要	2
2. 質疑応答	
2-1 質問内容および回答	4
2-2 意見内容および回答	7
2-3 提案および指摘事項	9
3. 授業見学および施設見学	11

1. 外部評価委員会

1-1 近畿大学工業高等専門学校 外部評価委員名簿

委員長	大阪大学名誉教授 元奈良工業高等専門学校校長	たにぐち けんじ 谷口 研二
委員	豊橋技術科学大学特定教授/学長特別補佐	ふくもと まさひろ 福本 昌宏
委員	三重交通グループホールディングス(株) 代表取締役会長	おかもと なおゆき 岡本 直之
委員	(株)三重銀行取締役会長 四日市商工会議所会頭 三重県商工会議所連合会会長	たねはし じゅん じ 種橋 潤治
委員	名張市長	かめい としかつ 亀井 利克
委員	名張市議会議員	ふくた ひろゆき 福田 博行
委員	元名張市教育委員会教育長	うえしま かずひさ 上島 和久

(順不同・敬称略)

1-2 令和2年度外部評価委員会議事概要

1. 日時: 令和2年11月17日(火) 12:50~15:55
2. 場所: 近畿大学工業高等専門学校 本館2階 大会議室

3. 出席者

外部評価委員

- 谷口 研二 (大阪大学名誉教授、元奈良工業高等専門学校校長)
福本 昌宏 (豊橋技術科学大学特定教授/学長特別補佐)
岡本 直之 (三重交通グループホールディングス(株)代表取締役会長)
種橋 潤治 (株)三重銀行取締役会長、四日市商工会議所会頭、三重県商工会議所連合会会長)
亀井 利克 (名張市長)
福田 博行 (名張市議会議員)
上島 和久 (元名張市教育委員会教育長)

本校出席者

- | | |
|---------------|------------|
| 校長 | 村田 圭治 |
| 高専担当部長 | 植田 昌伸 |
| 事務長 | 植田 良二 |
| 校長補佐 | 齊藤 公博 (司会) |
| 校長補佐 | 政清 史晃 |
| 事務長補佐 | 佐藤 武彦 |
| 学生主事 | 上田 透 |
| 入試主事 | 仲森 昌也 |
| 教務主事 | 鈴木 隆 |
| 機械システムコース長 | 荒賀 浩一 |
| 教務主事代理 | 中村 信広 |
| 寮務主事代理 | 松尾 大介 |
| 入試主事代理 | 松岡 良智 |
| 情報処理教育センター長補佐 | 船島 洋紀 |
| 情報処理教育センター長補佐 | 三崎 雅裕 (記録) |
| 教務主事補 | 小野 朗子 (記録) |
| 教務主事補 | 安井 宜仁 |
| 進路指導主事補 | 長谷川 尚哉 |
| 学生部主任 | 楢田 英也 |
| 事務部主任 | 森本 純司 |

4. 議事概要

【1】開会

齊藤校長補佐から、令和2年度外部評価委員会の開会があり、日程および配布資料の確認を行った。

【2】校長挨拶

村田校長から、外部評価委員に対して近大高専の近況報告、新型コロナウイルス感染症対応状況、コロナ禍における学生生活と学習、学校としての防止対策と発症疑い時の対応準備についての報告があった。

【3】議事

令和3年度の高等専門学校機関別認証評価受審に向けた次の項目の概要について、外部評価委員に説明を行った。

- (1) 教育の内部品質保証システム（湊田学生部担当）
- (2) 教育組織および教員・教育支援者等（安井教務主事補）
- (3) 準学士課程の学生の受入れ（松岡入試主事代理）
- (4) 準学士課程の学習・教育の成果（松岡入試主事代理）

【4】授業見学および施設見学

授業見学では、実践的な学習である実習（機械システムコース3年工作実習）、工学実験（電気電子コース4年工学実験、制御情報コース4年工学実験）や卒業研究（都市環境コース田中研究室）の授業見学を行った。また、施設見学は、新しく建設された武道館および各種授業形態対応するために教室改修したCAE教室の見学を行った。

【5】質疑応答および講評

授業見学および施設見学後に外部評価委員からの質疑応答および講評が行われた。なお、質疑応答の詳細は次項に示す。

【6】閉会

齊藤校長補佐から、外部評価委員に対する謝辞が行われ、外部評価委員会を閉会した。



会議写真

2. 質疑応答

2-1 質問内容および回答

(1) 新1年生の4月から6月まで対応について。(福本委員)

(回答) 4月20日からは遠隔授業のためのガイダンスで登校させたが、体育館や約300名収容できる大教室で密にならないように分けて実施した。翌週4月27日からは1年生も遠隔授業になり、殆ど学生同士が顔を合わせることもない期間が続いたが、コロナ感染状況の改善がみられた6月1日から、まず本科1年生と専攻科生のみ限定して対面授業を再開した。

(村田校長)

(2) その期間の新1年生において学生同士の触れ合いやクラスの友達作りについての状況について。

(福本委員)

(回答) 翌週4月27日からは1年生も遠隔授業になり、殆ど学生同士が顔を合わせることもない期間が続いた。学校生活に早く慣れてもらうために、コロナ感染状況の改善がみられた6月1日より、本科生では1年生だけ先に登校を開始し、広い教室を活用して対面授業を行った。本校は寮もあるので、クラスターが発生すると問題になる。大学のようなこまめな遠隔と対面の切り替えが難しく、学生には我慢をして頂いた。

(村田校長)

(3) 三重県のPR活動・広報活動の場所について。(岡本委員)

(回答) 本校主催で津・四日市・名張・伊賀で2回開催し、2回目は熊野でも行っている。1回目の津・四日市会場では、鈴鹿高専、鳥羽商船と合同で行い、伊賀・名張会場では鈴鹿高専、奈良高専と合同で行っている。今年度はなかったが、例年、伊勢・尾鷲で開催されている鳥羽商船主催の説明会にも参加している。(仲森)

(4) 人事交流について。(岡本委員)

(回答) 近畿大学の附属学校の間では、人事交流があるが、本校は高等教育機関であるため、教員は教員免許が不要な代わりに専門の強い教員が集まっている。最近では附属学校との人事交流はできていない。近畿大学の理工学部機械系の教員に非常勤講師として授業を受け持って頂いている。企業とは伊賀・名張・津などで設計事務所を運営されている一級建築士の先生や卒業生で会社経営をしていた先生などの実学経験者に卒業研究や製図の授業を担当して頂いている。(村田校長)

(5) 女子学生の割合について。(福田委員)

(回答) 1年生に14名(総数170名)が在籍している。女子学生が増えてきている。(仲森)

(6) 留学生の状況と受け入れ体制について。(種橋委員)

(回答) 高専をグローバル化・国際化するには海外から留学生に来てもらい、学内に英語で会話をする雰囲気ができるのが望ましい。現在、イギリスのチェシャーカレッジ サウス&ウエストと国際交流協定を結んでいるが、もっと留学生に来て欲しい。3年くらい前から、日本学生支援機構などの日本語学校に学生募集を行い、一昨年に数名受験し合格したが結局入学しなかった。昨年は2名が受験したが不合格であった。現在、舞鶴高専を卒業して専攻科に入学したルワンダ共和国の学生が1名在籍している。本校の4年に編入するための日本語能力を日本語検定レベルN2としているが、N2はレベルが高すぎるとの指摘もあり、検討が必要である。(村田校長)

(7) 名張地域からの入学者が減少している理由について。(福田委員)

(回答) 2年前と3年前の入学試験において、成績上位の受験者が増え、中学校成績の優秀な生徒が本校入学試験に落ちたこともあったためか、事前に調整されて受験者数が減ったことが、原因の1つではないかと考えている。その他の原因としては、次のようなことも考えられる。

ベースには少子化があり、三重県内の公立高校については、ごく一部の進学校と呼ばれる高校の一部の学科だけが倍率1を大きく超え、あとは北部の一部の高校が倍率1.0を少し超えた程度で、ほぼ定員ちょうどか定員割れを起こしている状況である。

もう一つは、経済的な問題。本校は私学であり、奈良の私立高校と比較するとそれほど授業料は高くはないが、三重県の私立高校や公立高校と比較すると高くなっている。

また、私立高校に通う生徒に対する県からの支援は、大阪府や奈良県と比較すると三重県は少ないと思う。(仲森)

(8) IR 推進室について。(谷口委員長)

(回答) 学生の満足度を調査・分析を行い、アクションに活かすための部署で、現在準備段階である。これから学生の満足度向上に繋げたい。(齊藤)

(9) 運動の選手でレベルが高い学生の推薦基準について。また、スポーツで入学した学生と他の学生との成績について。(谷口委員長)

(回答) 野球、サッカー、陸上、ソフトテニス強化クラブとし、実績ある教員が監督を務めている。監督が声をかけているが、特別な場合を除き、成績も校長推薦基準を基本としている。(村田校長)

(10) 若い教員が少なく、30代が全体の1割程度であることについて。(谷口委員長)

(回答) 学生総数900人程度の小規模な学校で、限られた人数の専任教員で運営している状況であり、若手教員を採用して講師⇒准教授⇒教授と学校で育てていくのはなかなか難しい。実務や研究で実績のある方を一般公募し、採用しているので、結果的に採用時の年齢が高くなっている。本校卒業生が、博士の学位を取得し、若いうちに教員として本校に戻って来てくれることを期待している。(村田校長)

2-2 意見内容および回答

(1) 地元からの入学者が減っている件について、これまでは公立高校を残すことを優先してきたが、高校が一つ減り、高専の卒業生が地元就職しているため、進路指導の強化もやっていく。今年度のうちに名張市の小学生、中学生に PC が一人一台渡るが、教員が指導できるかが心配される。中学生に対して高専が何かアプローチできれば、高専の存在が大きくなるので考えて欲しい。(亀井委員)

(回答) 小中学校へのプログラミング出前授業や小中学校の先生への ICT 教育などの取り組みを既に進めている。これらを通じて、小中学生に近大高専の名前を覚えて頂き、また小中学校の先生との関係を深めることにより学生募集につながればと考えている。(政清)

(2) AI 教育について、教育機関で AI・IoT を使える人材をどれだけ育てられるか。制御情報に限らず、全てのコースで AI 教育を強く要望する。他高専は既に文科省から予算がおり実践している。大学は既に AI の基礎ができているという前提でカリキュラムが組まれている。(福本委員)

(回答) 従来の情報工学から AI、情報セキュリティ人材を育てるため、今年度から 3 つの科目群を学べるようなコースを設けている。制御情報コースに限らず、全コースで AI の教育を実施する指摘について、専攻科では知的情報処理の科目である程度対応をしているが、本科では全コースで学べるようなカリキュラムになっていないため、今後の課題である。(政清)

(3) 地元からの進学者数が増えていない。大幅な子供の減少のエビデンスとして、県立高校が 3 校から 2 校になっている。名張市の学力が上がっているが、学力だけでなく、コロナ禍では人権の問題も含め、近大高専の目指す人格教育も大事なことである。教育センターの週末支援事業等で近大高専の学生が活躍しており、早い段階で、近大高専のことを(親も含めて)小さい時から知ってもらうことが大事である。実績が上がっているため、宣伝・発信をして欲しい。ルールを守り礼節をわきまえている学生が多いため、名張の市民も喜んでいる。市内で多くの学生が地域貢献するようにして頂きたい。(上島委員)

(回答) 早い段階で近大高専を周知し、知名度を向上できればと思う。(齊藤)

(4) 事前に送って頂いた資料と今回準備して頂いたものと 2 種類あり、次回から整理して欲しい。全体として制度は整っており、規定も明記されていて問題はない。企業からのアンケートで、達成度・満足度が低い点について、対応策を考えて成果を出して欲しい。技術・技能に加えて、英語などの外国語コミュニケーションにも力を入れて欲しい。価値観・倫理観が身に付いていないが学生が 11%いるので、価値観はもちろん、倫理観の習得に力を入れて欲しい。(岡本委員)

(回答) 今後の課題として対応を考えていく。英語力については、これからバランスの良い学生を育てることが重要である。(齊藤)

(5) シラバスという単語に馴染みがないので、高専だけでなく、学校関係者として理解させる努力が必要である。(岡本委員)

(回答) 授業科目・授業内容を表記で付け加えるなどの対策ができると思う。(齊藤)

(6) 高専には選挙権のある 18~20 才の学生がいるので、投票に行くような教育をして欲しい。(福田委員)

(回答) 主権者教育という形で、名張市の選挙管理委員会と協力して模擬投票などを行っている。今年度は主権者教育研修会を実施していないが、授業の中で教育している。(松尾)

(7) コース選択について、コースを決めた時のアンケートと数年後の卒業時にアンケートを実施し、選択したコースで良かったかどうかについて調査をしてはどうか。そのようなアンケート結果を 2 年のコース選択時の参考に学生に見せてはどうか。(谷口委員長)

(回答) 今後は、卒業時にもアンケートをとるようにする。(村田校長)

2-3 提案および指摘事項

(1) 地方創生で国の方でもメニューを準備しているので、是非とも名張市と一緒に研究をやって頂きたい。(亀井委員)

本校では市と共同で「CODE for Nabari」(IT活用による地域課題への取り組み)、竹廃材を用いたものづくり伝承、コミュニティーバス再編成、獣害対策など、既に行っているプロジェクトがあります。現在、市経済部商工経済室と地方大学・地域産業創生交付金事業の可能性について相談を行っています。

(2) インターンシップについて、行政も頑張る必要がある。中学生の進路の資料(委員の先生への配布)で、私立高等専門学校が減っているので何とかしたい。名張の人口について、伊賀、宇陀、山添、曾爾、御杖から名張に転入があるが、高専の魅力もあると思う。名張で子育て、教育という中で、進学・就職で出ていくのは辛い。高専へ人を送り、地元で就職して頂きたい。(亀井委員)

本校では、毎年末に合同就職説明会を開催し、数十社の地元企業様と学生との面談を実施しています。市より提案頂いた地元企業の若手OBと本校学生との座談会の企画があります。また、本校テクノセンターより名張市経済好循環・名張市地域活力創生委員会の際において、市の地元定住への取り組みを就職説明会時に紹介が可能か伺っています。こうした地道な活動から地域へ興味を持ってもらえる学生を増やしてゆく活動を広げてゆきたいと考えています。

(3) 学生の満足度調査について、他校との比較があれば教えて欲しい。(亀井委員)

他高専の公開情報を活用して満足度の比較ができるアンケート内容の策定と本校における学生の満足状況の把握に努め、満足度向上のための取り組みを継続いたします。

(4) 合格者と入学者を上手に制御できていると思うが、受験者数が減少していることが問題である。15歳の人口減少よりも急激に減っている。質の保証のためには、母数となる受験者数を増やす必要がある。(福本委員)

普通科指向・理科離れの傾向があり、また、全国的にみると高校に対する高専の数は少なく、高専制度を知らない方、またはいろいろな進路先を詳しく調べなくてもいいと思っている方がおられます。本校としては、「高専」制度を知ってもらうこと、また、女性も活躍する社会で、工学エンジニアの分野でも女子学生が必要とされていることなどを知っていただくための広報活動を引き続き行いたいと考えております。また、「理科離れ」については、小さい子供の頃から科学に興味を持ってもらうことや保護者にも理工系の楽しさや大切さを知ってもらう活動をしていくことも大切だと考えています。

(5) 非常勤教員の採用について、伊賀・名張に限らず、津など拡大をされてはどうか。
(種橋委員)

非常勤教員採用にあたっては、地元機関紙の YOU 様および全国規模の JREC-IN へ掲載し募っています。津市への拡大についても検討を致します。

(6) 図書館の利用とシラバスの認知度が低い。(谷口委員長)

LHRを利用してシラバスの説明や活用方法について教務部が中心となって定期的に学生に対して周知を行い、シラバスの認知度向上に努めます。

図書館の利用率を向上させるためにアンケート調査の実施や学生の意見聴取から、利用の障壁になっている原因を調べるとともに利用向上に向けた改善策の提案を致します。

(7) シラバスは保護者にわからない。科目内容の説明を入れてはどうか。(谷口委員長)

シラバス表紙に「授業計画」や「講義内容」などシラバスの意味がわかる副題の追加や学生便覧にシラバスの目的や重要性などわかりやすい説明文の記載を致します。

(8) あまり有名になるとレベルが上がり地元から行きたくても行けなくなるのではないかと心配である。今後、地元の子供が行けるように、優先して欲しい。(上島委員)

地元の中学校の先生とお話しする機会があり、「工学系が好きで、まじめだが、実力テストはあまり点数が取れない学生がいる。」旨の相談を受けました。

本校では、出席状況等も含んだ中学校の成績、入学試験成績、面接などを総合的に判定して入試結果を出しています。地元の中学生には、面接の点数を多くとって、合格につなげてほしいと考えています。

3. 授業見学および施設見学



機械システムコース 3年 工作実習



電気電子コース 4年 工学実験（中西班）



武道館 施設見学



制御情報コース 4年 工学実験（岩佐班）
CAE教室 施設見学



都市環境コース 5年 卒業研究（田中班）